

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート (R6年度)

事業No.	1	計画書ページ	60ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	重層的支援体制の構築			施策の方向性	1 利用しやすい福祉サービスの提供
				実施主体	福祉総務課

1 事業概要

市民からの複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、分野を横断した重層的な支援体制づくりを進めます。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：福祉総務課

取り組み内容	佐賀県が実施するアドバイザー派遣を受け、市役所内の連携の在り方や生活困窮・高齢・障がい・こどもの各分野ごとの課題を整理した。その整理をもとに、唐津市における重層的支援体制の多機関協働事業について大まかな流れや役割整理を行った。
成果	アドバイザーの進行のもと、各分野の状況や課題の共有を行い、重層的支援体制についての意識醸成や多機関連携事業について理解が深まり、方向性について確認できた。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：福祉総務課

課題	令和6年度は市役所内での検討にとどまっていたため、多機関協働事業についての民間等との連携や地域資源の実態把握が課題
取り組み方針	令和8年度事業開始に向け、定例の庁内会議や外部機関との協議等をすすめ、さらに多機関協働事業の具体化を進める。また、多機関協働事業以外のアウトリーチ等を通じた継続支援や参加支援事業、地域づくり事業について整理を行う。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：福祉総務課

数値目標等						
重層的支援体制整備事業の実施						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	検討	検討	事業開始	実施	実施	実施
実績	検討	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
令和6年度は庁内での関係課との協議を重ね、各相談分野の課題の洗い出しや連携の可能性を確認することができ、大まかな制度設計を整理ができた一方で、外部機関との具体的な連携協議には至らず、課題として残った。
【令和6年度】実績 県派遣アドバイザーを含めた検討会議：3回
【令和7年度】目標 制度開始に向けた実務者会議：6回
※令和8年度以降は、状況に応じて目標設定

自己評価

3

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	2	計画書ページ	60ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	基幹相談支援センターの設置による相談支援体制の充実			施策の方向性	1 利用しやすい福祉サービスの提供
				実施主体	障がい者支援課

1 事業概要

地域の障がい福祉に関する相談及び支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを設置することで、他機関と連携したサポートを行い、本市の障がい福祉の発展をめざします。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：障がい者支援課

取り組み内容	障がいのある方、その保護者、または障がいのある方の介護を行う人などからの相談に応じる。必要な情報の提供等の便宜を供与することや、権利擁護のために必要な支援を行うことにより、障がい者等が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう支援する。
成果	基幹相談支援センター事業及び障害者相談支援事業を実施する北部地域障がい者相談支援センターを運営し、総合的・専門的な相談支援を実施するなど地域の相談支援体制の強化に向け取り組んだ。また、情報提供などを通じ、福祉サービスの利用援助を行った。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：障がい者支援課

課題	令和6年度は、地域の課題の抽出を行ったが、具体的な改善方法を見出すには至っていない。また、権利擁護・虐待の防止に関する取り組みや地域生活支援拠点等に関する取り組みも改善の余地がある。
取り組み方針	地域の課題解決に向けた取り組みや地域生活支援拠点等事業利用登録をいかに増やしていくかは、自立支援協議会の中で協議を重ねていく必要がある。また、権利擁護・虐待の防止に関する取り組みとして、積極的に出前講座を行うなどの啓発活動を行いたい。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：障がい者支援課

数値目標等						
基幹相談支援センターの設置						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	設置	実施	実施	実施	実施	実施
実績	設置	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
基幹相談支援センターの設置により、個別相談件数や地域支援等の総件数が、令和5年度の8,222件から、令和6年度は14,457件と大幅に増えた。本市の障がい福祉の発展に寄与している。
○相談支援専門員数 【令和6年度】実績：31人 【令和7年度】目標：34人 ※令和8年度以降の目標：前年度+5人

自己評価

2	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	3	計画書ページ	63ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になる
主要推進事業名	福祉サービスの利用の促進			施策の方向性	1 利用しやすい福祉サービスの提供
				実施主体	福祉総務課ほか

1 事業概要

必要な人に情報が行き渡るよう、様々なメディア（市報、ホームページ、SNS、ガイドブックなど）を活用した効果的な情報発信を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：福祉総務課

取り組み内容	市報、ホームページ、SNS等を通じた医療・子育て・包括ケア等の情報発信を継続し、令和6年12月には唐津市ホームページを全面リニューアルを行い、検索性の向上とスマートフォンでの操作性の向上を図った。オンライン申請については、オンライン申請率の向上及び対象事務の拡大に取り組んだ。
成果	健診や予防接種、子育て、包括ケア等に関する情報を多様な媒体で周知し、ホームページリニューアルにより検索性が向上。オンライン申請については、前年以前から実施している低所得者世帯支援給付金及び児童クラブ各種手続きはオンライン申請率が向上し、新たに未熟児養育医療費助成のオンライン申請も開始した。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：福祉総務課

課題	情報発信手段について、デジタル利用が難しく、紙媒体を利用する高齢者や言語の壁が存在する外国籍住民など情報にアクセスしづらい層への対応が必要。
取り組み方針	紙媒体・窓口案内との併用を意識し、住民が必要な福祉情報を自分に合った方法で得られる環境づくりを図るとともに、オンライン手続き対象のさらなる拡大を図り、利便性の向上を目指す。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：福祉総務課

数値目標等						
保健福祉分野におけるオンライン申請ができる手続き数						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	26	26	28	28	30	30
実績	25	-	-	-	-	-
達成度	96%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
ホームページの刷新やオンライン申請の拡充は若年層や子育て世帯を中心に利便性が向上しており、サービス利用の促進や早期相談・申請につながる基盤づくりが進んでいる。

自己評価

3
---

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	4-1	計画書ページ	63ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	福祉に関するわかりやすい情報発信【市】			施策の方向性	1 利用しやすい福祉サービスの提供
				実施主体	福祉総務課、こども家庭課ほか

1 事業概要

市ホームページのリニューアルに合わせ、子育て支援に関する特設サイトを設置し、子育て支援に関するわかりやすい情報発信を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：こども家庭課

取り組み内容	唐津市ホームページのリニューアルに伴い、子育て支援の特設サイトを設置し、「年齢や時期」「内容や目的」での検索が可能な仕様とした。また、唐津市公式ラインにおいても、本市の施策やイベント情報等を掲載し、タイムリーな情報発信に努めた。
成果	ホームページリニューアル後（R7.1.1～R7.3.31）の特設サイト閲覧数：41,370件 特設サイト設置により必要な情報へのアクセスが容易になったほか、相応の閲覧数を得ており、市民サービスの向上に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：こども家庭課

課題	市報、ホームページ、子育てガイドブック等については、情報を受け取る側（市民）が情報を探す必要があるため、今後は送り手側（行政）が能動的に情報を提供するプッシュ型配信を強化し、より広範囲への情報発信を行う。
取り組み方針	従来の情報発信手法に加え、市の公式ラインやインスタグラム等のSNSを導入するなど、複数の媒体を用いた幅広い情報発信に向けて検討を行う。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：こども家庭課

数値目標等						
子育て支援に関する特設サイトの設置						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	設置	検証	見直し	検証	検証	見直し
実績	設置	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
新たなホームページへの特設サイト設置は完了したが、今後における当サイトの利用状況等を注視し、市民が欲しい情報とのミスマッチが生じることのないよう、継続的な検証・見直しを行っていく必要がある。また、新たな媒体を用いた情報発信の強化についても、検討を要する。
○新着情報発信回数 【令和6年度】実績：10回(R7.1～3月) 【令和7年度】目標：50回 ※令和8年度以降は、状況に応じて目標設定

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	4-2	計画書ページ	63ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	福祉に関わるわかりやすい情報発信【社協】			施策の方向性	1 利用しやすい福祉サービスの提供
				実施主体	社会福祉協議会

1 事業概要

社協だよりの発行やSNSを活用した地域福祉情報の発信を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	年に4回発行する社協だよりがより地域に密着した福祉情報の発信につながるよう、全戸配付を行う強みを生かして、記事の作成・発信を行う。またタイムリーな情報を発信できるよう、SNSによる情報発信に取り組む。
成果	社協だより発行前に編集委員会を行い、記事内容の検討を行った。また8月から社協のInstagramを開発。事業実施前の案内や実施後の報告などを発信した。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	社協だよりは市報と同時に配付されるため、混同されることも多い。また記事内容が社協の事業が中心であるため、地域の福祉情報についても発信できるよう工夫していく。Instagramはフォロワー数が発信力につながるため、フォロワー獲得が急務。
取り組み方針	必要とされる情報の収集、発信を引き続き行うとともに、見やすい、伝わりやすい記事作成のための勉強会などを実施していく。またInstagramは記事投稿とフォローの呼びかけを行っていく。

4 進捗状況及び自己評価 記入部署：社会福祉協議会

数値目標等						
SNSでの地域福祉情報の発信						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	検討	検討	実施	実施	実施	実施
実績	実施	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
社協だよりは全戸配付を行っているため、一定程度、特に高齢世代を中心に広報効果がある。またInstagramを開発したことで、若年層への情報発信力は向上している。その一方で、改めて写真撮影の方法や記事構成を工夫するなど改善すべきことも多い。
○Instagram発信回数 【令和6年度】実績：78回 【令和7年度】目標：88回（前年度+10回） ※令和8年度以降は、状況に応じて目標設定

自己評価

3

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	5-1	計画書ページ	66ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	障がいのある人や高齢者の住環境整備への支援【障がい者】			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	障がい者支援課

1 事業概要

在宅で生活している障がいのある人や要介護状態となった高齢者の人が、自立した日常生活を営めるように、日常生活用具等の給付や、住宅改修に必要な経費の助成を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：障がい者支援課

取り組み内容	市報、チャンネルからつ、市ホームページにより周知を行った。 「日常生活用具給付費」と「身体障がい者(児)住宅改造補助金」の2つの事業となるため、それぞれの事業の要件や申請の流れについてのパンフレットを市民センターを含む福祉窓口を設置して説明を行った。
成果	令和6年度は、「日常生活用具給付費（住宅改修）」2件、「身体障がい者(児)住宅改造補助金」0件の合計2件の助成を行った。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：障がい者支援課

課題	「身体障がい者(児)住宅改造補助金」は令和5年度から実施の事業であるため、今後も引き続き市報、チャンネルからつ、市ホームページ等で市民へ広く周知を行っていくとともに、他に効果的な周知方法がないか検討していく必要がある。
取り組み方針	今後も引き続き市報、チャンネルからつ、市ホームページ等で市民へ広く周知を行っていき、窓口での周知も積極的に行っていく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：障がい者支援課

数値目標等						
住宅改修の給付件数(障がい者・児) (件)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	5	6	6	6	7	7
実績	2	-	-	-	-	-
達成度	40%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
年間を通して住宅改修に関する問い合わせはあっているが対象にならず、申請まで至らなかったケースもあった。対象となる障がい者まで周知が行き渡るように広く周知を行っていきたい。

自己評価

2
---

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

## 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	5-2	計画書ページ	66ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になる
主要推進事業名	障がいのある人や高齢者の住環境整備への支援【高齢者】			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	介護保険課

### 1 事業概要

在宅で生活している障がいのある人や要介護状態となった高齢者の方が、自立した日常生活を営めるように、日常生活用具等の給付や、住宅改修に必要な経費の助成を行います。

### 2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署： 介護保険課

取り組み内容	介護保険住宅改修に関する制度の周知を図るため、市ホームページへの掲載や対象工事の具体例や手続きの流れについてまとめた介護保険ガイドブックの配布を行った。さらに、被保険者の制度利用に対する不安を軽減するため、地域包括支援センターやケアマネジャーと個別の相談対応の強化に努めた。
成果	令和6年度の介護保険住宅改修費支給実績は、居宅介護住宅改修185件、介護予防住宅改修152件の合計337件となり、目標件数444件に対して達成率76%となった。ケアマネジャーを通じた事前相談や申請支援が一定の成果につながり、制度の正しい理解と適切な運用の定着が進んだ。また、介護保険課での審査を経た上での支給により、制度の公平性が確保できた。

### 3 課題や今後の取り組み方針 記入部署： 介護保険課

課題	介護保険住宅改修は、対象となる工事が限定されており、利用するためには介護認定を受けていることが前提となる。利用希望者は担当ケアマネジャーに相談し、ケアマネジャーが介護保険課に申請、審査を経て許可が下りてからの着工となるため、手続き等が煩雑で時間を要することで、利用者が負担を感じる場合がある。特に、身体状況の変化等により迅速な対応を希望するケースでは、制度の制約が負担に感じられる傾向がある。
取り組み方針	今後は、制度の理解促進と申請の負担軽減を図るため、ケアマネジャーや地域包括支援センターを通じた説明を充実させる。あわせて、対象工事や必要書類について具体的な事例を提示し、利用者が早期の段階で制度活用可否を判断できるよう支援する。また、緊急性の高い案件については、関係機関と連携し、迅速な対応が可能な仕組みづくりを検討する。

### 4 進捗状況及び自己評価

記入部署： 介護保険課

数値目標等						
住宅改修の給付件数(高齢者) (件)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	444	456	456	458	458	458
実績	337	-	-	-	-	-
達成度	76%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
介護保険住宅改修費助成制度は、利用者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための住環境整備や自立支援と介護予防の観点からも効果が見られる。支給実績は目標に対して一定の水準を維持しており、地域福祉の充実に向けた基盤整備として位置づけられる。一方で、制度利用における手続きの煩雑さや期間の長さが心理的な負担となるケースも見られるため、引き続き制度的確な運用と利用者へ寄り添った支援体制の両立を図りながら、地域福祉の向上に資する施策として継続していく。

#### 自己評価

# 3

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

#### 評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	6	計画書ページ	66ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	障がいのある人の自立(就労)への支援			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	障がい者支援課

1 事業概要

就労に必要な知識や能力の向上を図るため、就労支援の通所サービスの提供を行ったり、市の会計年度任用職員として雇用したりして、障がいのある人の自立（就労）への支援を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：障がい者支援課

取り組み内容	・就労に必要な知識及び能力向上のため、就労系の障害福祉サービスの支給決定を行った。 ・ハローワークに就職希望の登録をしている障がい者を対象に、会計年度任用職員（事務補助）として年間3名雇用し、一般就労に向けての訓練の場を提供した。
成果	・就労系の障害福祉サービス利用者のうち、令和6年度は10人が一般就労につながった。 ・3名雇用の内、2名は体調不良等の理由により年度途中の退職となり、1名についても一般就労には至らなかった。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：障がい者支援課

課題	・必ずしも障がい者本人の希望、就労能力や適性等に合った就労先、働き方の選択ができていない
取り組み方針	・北部地域自立支援協議会就労支援部会を通して、関係機関と課題に対する対策を検討するなど情報共有や連携を行っていく。 ・会計年度任用職員としての雇用については、本人の障がいの特性や体調面に配慮しながら、訓練の場を提供していく。また、ハローワークと連携しながら一般就労へとつなげていく。

4 進捗状況及び自己評価 記入部署：障がい者支援課

数値目標等						
障がいのある人の一般就労者数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	15	15	16	16	16	16
実績	10	-	-	-	-	-
達成度	67%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
障がいがある人の一般就労への移行者数は達成度67%と目標には達しなかったが、北部地域自立支援協議会就労支援部会など関係機関を通じた就労支援体制は継続し、行っていく。

自己評価

2  
自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	7-1	計画書ページ	66ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	障がいのある人や高齢者の日常生活への支援【高齢者・軽度生活援助】			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	高齢者支援課

1 事業概要

在宅の一人暮らし高齢者の軽易な日常生活上の作業などを援助したり、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理の相談などを行ったりすることで、自立した生活の継続を支援します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署： 高齢者支援課

取り組み内容	①高齢者軽度生活援助事業 室内清掃や粗大ごみの搬出、庭の除草作業などをシルバー人材センターへの委託により実施。 ②寝たきり高齢者移送サービス事業 寝たきり・車イスの高齢者に対し、自宅と医療機関間の福祉タクシー運賃の9割を助成 ③高齢者訪問理美容サービス事業 出張型の理美容サービスが必要な高齢者に対し、出張費部分を委託料として支援。
成果	本事業により、安価で各種サービスを受けられることにより、高齢者やその親族等の負担を軽減し、在宅の高齢者が、住み慣れた地域で自立した生活を継続できるよう支援できた。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署： 高齢者支援課

課題	軽度生活援助の利用時間は横ばいで推移しているが、事業のサービスの提供にあたる担い手が不足している。
取り組み方針	関係部署と連携し、制度周知も含め人材確保のため広報活動を積極的に行う。

4 進捗状況及び自己評価 記入部署： 高齢者支援課

数値目標等						
高齢者軽度生活援助事業延べ利用時間（h）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	11,000	11,000	11,500	11,500	12,000	12,000
実績	8,958	-	-	-	-	-
達成度	81%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
延べ利用時間数は、目標数に達していないが、事業の実施により高齢者の在宅生活の継続に一定の効果があった。 今後は、制度の周知及び担い手確保のために広報活動等を強化したい。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	7-2	計画書ページ	66ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	障がいのある人や高齢者の日常生活への支援【高齢者・あんしんサポート】			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	高齢者支援課、社会福祉協議会

1 事業概要

在宅の一人暮らし高齢者の軽易な日常生活上の作業などを援助したり、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理の相談などを行ったりすることで、自立した生活の継続を支援します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	本人やその家族、入所している施設からの相談に応じ、事業説明や判断能力を調査のうえ日常生活自立支援事業（あんしんサポート）の契約を行った。また訪問の際、市や事業所などからの文書を確認しながら、手続きの助言等を行った。
成果	福祉サービスの利用料の支払いを含め、収支バランスを考えながら、利用者の生活費等を計画し業務にあたっている。利用者との関係性ができている中で、日常の生活相談も受けている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	すべての利用者の生活支援を職員で担うのは難しく、事業内容の周知を含め、活動に協力いただける生活支援員を確保するための広報活動が必要である。
取り組み方針	民生委員や介護保険、障害サービス事業所職員等に、成年後見制度などと合わせて事業説明を行っていく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：高齢者支援課

数値目標等						
「安心サポート」契約者件数（件）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	67	69	71	73	75	77
実績	69	-	-	-	-	-
達成度	103%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
・認知症や知的・精神的障害により日常生活を営むのに支障がある高齢者に対し、福祉サービスの利用援助、日常の金銭管理サービス（安心サポート）、成年後見制度の活用などで、地域において自立した生活の継続の支援ができた。 ・高齢化の進行に伴い、支援員の確保に関する取組を行う必要がある。

自己評価

4	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	8	計画書ページ	67ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	買物送迎サービスへの支援			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	社会福祉協議会

1 事業概要

高齢者や障がいのある人など、日常的な買物を行うことが困難な方を支援するため、買物送迎サービスを実施する町内会や地区社協へ支援車両の貸し出しを行い、その取り組みを支援します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	地域協議体や生活支援ボランティアの会議等で事業内容説明を行い、その利用に向けた案内を行った。
成果	移動支援サービスを独自で行っている地区以外でも、高齢者の移動について考える機会にもなり、試験的に実施を行うなど、前向きに検討を行う地区が出てきている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	ドライバーを地域のボランティアで確保しなければならず、その担い手確保が必要。また社協が保有する公用車の空き時間中の貸出であるため、利用者側との日程調整も必要。一方で、買い物以外の利用(高齢者サロンなどの送迎)へのニーズも出ている。
取り組み方針	先駆的に取り組んでいる地区の事例を、他の地区でも紹介し利用促進を図る。また高齢者の参加支援や地域づくりにつながるよう努める。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：社会福祉協議会

数値目標等						
買物支援車両貸出件数						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	10	20	40	50	60	70
実績	10	-	-	-	-	-
達成度	100%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
公共交通機関が減少する中、地域ボランティアの協力による地域に密着した支援により、移動が困難な方の移動手段の確保、買い物難民の救済に寄与している。 地域ボランティア・担い手の確保に努め、利用促進を図りたい。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

## 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	9	計画書ページ	70ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	生活自立支援事業の推進			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	生活支援課、社会福祉協議会

### 1 事業概要

生活困窮者が困窮状態から早期に脱却できるよう、就労支援を主体として、本人や家族の状況に応じた自立相談支援、家計改善支援及び就労準備支援を相談者に寄り添い包括的に実施します。

### 2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	令和6年度は、新規相談者数496人を受け付け、生活困窮に関する幅広い相談に対応した。支援プランとしては、自立相談支援計画を87件、家計改善支援計画を44件、就労準備支援計画を16件作成し、個々の状況に応じた支援を行った。また、ハローワークとの連携を強化し、相談者の就労に向けたサポートを実施し、地域からの情報提供を重視し、早期支援に繋がる体制づくりにも注力した。
成果	就労支援においては、ハローワークとの連携により、一般就労76件、福祉的就労7件の就労実績を達成した。これにより、多くの生活困窮者の経済的自立を支援することができた。また、多様な支援計画の策定を通じて、相談者一人ひとりの課題に合わせた具体的な支援を提供し、生活再建に向けた着実な歩みをサポートした。

### 3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	制度が地域にまだ十分に浸透しておらず、住民からの情報提供を促すための理解が不足していることが課題である。特に、経済的または心身の状況により相談窓口への来所が困難な旧町村部の生活困窮者に対し、十分な支援が届いていない可能性がある。アウトリーチの強化が必要であり、公用車輛を活用した訪問支援の拡充が求められる。また、支援の質をさらに向上させるため、専門知識の向上と専門職員の充実も喫緊の課題である。
取り組み方針	令和7年度は、引き続き普及啓発活動を強化し、自立支援制度の地域へのさらなる浸透を図る。公用車輛を活用したアウトリーチ支援を強化し、旧町村部を含む相談困難な生活困窮者への積極的なアプローチを進める。さらに、相談者一人ひとりに寄り添った伴走型支援を充実させるため、職員の専門知識の向上に向けた研修を推進し、専門職員の増員を図る。経済的困窮だけでなく、地域社会からの孤立解消にも焦点を当てた支援体制を構築する。

### 4 進捗状況及び自己評価

記入部署：生活支援課

数値目標等						
事業活用による就労者数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	150	150	150	160	160	160
実績	83	-	-	-	-	-
達成度	55%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
生活困窮の状態から脱却するため、相談者に寄り添った支援を実施した。ハローワークとの連携による就労支援により、令和6年度は83人が就労に結びつき、生活の安定及び経済的自立に繋がった。令和6年度の目標である就労者数150人は達成できなかったものの、相談者数は年々減少し、事業の就労率は上昇している。

#### 自己評価

2

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

#### 評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	10	計画書ページ	70ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	認知症対策の推進 (チームオレンジの整備)			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	地域包括ケア推進課

1 事業概要

認知症と思われる初期の段階から、認知症の人の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と、認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み（チームオレンジ）づくりを行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：地域包括ケア推進課

取り組み内容	認知症サポーターステップアップ研修受講修了者が、チームオレンジを地域で展開し、見守り、声掛け、話し相手、外出支援などのチームオレンジ活動を認知症地域支援推進員がサポートする。また認知症カフェを実施するチームオレンジや事業所等の団体に対する支援として、補助事業を開始した。
成果	令和6年度は活動の担い手不足により、立ち上げに至っていない。しかし、令和5年度に立ち上がった3か所のチームオレンジでは認知症地域支援推進員のサポートを受け、定期的な活動が継続され、地域住民の認知症の理解が広がっている。また、認知症の人やその家族、地域住民や事業者との支援の輪が広がっている。R6年度より認知症カフェの補助金を交付することで活動の継続と安定的な運営を支援した。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：地域包括ケア推進課

課題	チームオレンジの活動である認知症カフェが安定かつ継続できるように、認知症地域支援推進員が活動に参加し、取組み状況の把握や情報提供、相談支援などフォローアップが必要です。
取り組み方針	認知症の人、本人も地域を支える一員として活躍し、社会参加する場として認知症カフェなど協議体ごとを目指し、整備していく必要がある。

4 進捗状況及び自己評価 記入部署：地域包括ケア推進課

数値目標等						
チームオレンジ立ち上げ数（チーム）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	5	6	7	8	9	10
実績	3	-	-	-	-	-
達成度	60%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活を継続していくことができるよう、認知症への理解を深め、認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みが広がりつつある。しかし、立ち上げは1年掛かりであり、意識の地域差や担い手確保といった課題がある。着実にチームオレンジを立上げるためには、認知症地域支援推進員が地域に出向き、認知症の人やその家族を含む地域住民、専門職等を巻き込んでいく必要がある。

自己評価

2	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	11	計画書ページ	70ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	更生保護サポートセンターの支援の充実（再犯防止の推進）			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	福祉総務課

1 事業概要

犯罪や非行をした人の地域における立ち直りの支援や再犯防止活動を行う保護司会に対し、活動拠点の更生保護サポートセンターの運営支援、活動の円滑な実施に寄与する様々な支援を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：福祉総務課

取り組み内容	保護司の活動拠点である更生保護サポートセンターの施設運営に係る費用補助、社会を明るくする運動の啓発、相談会についての広報を市報や市ホームページ等で行った。
成果	更生保護サポートセンターの運営と活動に対する支援を行うことで、円滑な保護司活動と保護観察対象者への更生保護につながっている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：福祉総務課

課題	保護司の高齢化やなり手不足が深刻な問題となっている。
取り組み方針	安全・安心な地域社会づくりへ貢献する保護司の活動について理解を深めてもらう取り組みを行い、国に対しても支援拡充の要望を行っていく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：福祉総務課

数値目標等						
犯罪や非行をした人の就労者数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	12	12	13	13	14	14
実績	12	-	-	-	-	-
達成度	100%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
保護司の尽力により、犯罪や非行をした人の就労者数は目標に達しているものの、更生保護に対する理解を深めてもらう取り組みが更に必要である。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

## 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	12-1	計画書ページ	73ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になる
主要推進事業名	成年後見制度利用者支援事業の推進【高齢者】			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	地域包括ケア推進課、社会福祉協議会

### 1 事業概要

(1)認知症高齢者や障がい者など、必要な人が必要な時に、成年後見制度を利用できるように社会福祉協議会に設置する成年後見サポートセンターを中心に普及啓発や相談支援など進めています。  
 (2)親族がいない高齢者等に対する申立て及び成年後見人等に対する報酬助成を行い制度利用を推進します。

### 2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	(1)成年後見制度の理解を広めるため、広報誌、パンフレット等による情報発信を行った。本人や家族、民生委員、介護保険サービス事業所などに対して講座や相談会を催した。多機関協働による成年後見制度申立てに係る検討や後見人等受任者調整（マッチング）、課題解決に向けた支援方針を検討した。法律・福祉の専門職団体等による地域連携ネットワークを構築した。 (2)成年後見人等に対する申立て及び報酬助成を行った。
成果	(1)民生委員、金融機関、高齢及び障がい者を支援する団体等に対して成年後見制度に関する研修や普及啓発、成年後見サポートセンターの情報発信を行ったことで、成年後見制度に関する相談件数が増加した。 (2)成年後見制度の申立て支援をはじめ、成年後見人等への報酬助成を行うことで、安心して生活できる環境が維持できている。

### 3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	成年後見制度に係る関係機関等による地域連携ネットワークの構築を目指し金融機関や関係機関に呼びかけ賛同を得た。今後、法律・福祉の専門職団体や関係機関など多様な主体が連携できる体制づくりが必要である。また、相談件数が増加する中で、申請書などの作成事務が難しく抵抗を感じる人がいる。
取り組み方針	地域連携ネットワーク会議を開催し法律・福祉の専門職団体や関係機関との連携、情報共有、課題抽出などに取り組み、成年後見制度を必要とする人が利用しやすい環境づくりを進めていく。 また、制度の正しい理解を広めると同時に、申請書などの作成に対する助言ができるよう担当者のスキルアップを目指す。

### 4 進捗状況及び自己評価

記入部署：地域包括ケア推進課

数値目標等						
成年後見制度に関する相談件数・高齢者（延）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	100	110	120	130	140	150
実績	90	-	-	-	-	-
達成度	90%	-	-	-	-	-
成年後見人等報酬助成件数(高齢者)（件）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	20	21	22	23	24	25
実績	33	-	-	-	-	-
達成度	165%	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は認知症高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活してもらうため、成年後見制度を必要とする人が必要な時に、適切に利用できる環境づくりに寄与している。今後も地域における権利擁護支援のための、地域連携ネットワークを構築していく必要がある。</li> <li>・判断能力が低下している中でもできる限り、本人の意向を尊重することの大切さも普及していく。</li> <li>・本事業が必要な方に身近な存在である住民や地域の団体の見守りや声かけなどの協力を得ることで、より早く相談機関につながる体制を構築する。</li> </ul>

#### 自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

#### 評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	12-2	計画書ページ	73ページ	基本目標	I 誰もが安心して暮らせる唐津になろう
主要推進事業名	成年後見制度利用者支援事業の推進【障がい者】			施策の方向性	2 安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実
				実施主体	障がい者支援課、社会福祉協議会

1 事業概要

認知症高齢者や障がい者など、必要な人が必要な時に、成年後見制度を利用できるように、社会福祉協議会に設置する成年後見サポートセンターを中心に普及啓発や相談支援など進めています。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	事業周知のため、民生委員会や関係団体の会議時に訪問し、事業説明を行った。また毎月行う受任者調整会議では、専門職による事例協議を行い、裁判所への申出及び支援の在り方まで検討を行った。
成果	判断能力が不十分な方への支援として、後見制度があることを少しずつではあるが周知できている。社協で行っている日常生活自立支援事業と併せることで、比較的連続した支援ができる。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	一般住民への周知が不足しているなかで、親族からの電話問い合わせなど相談件数は増加傾向。ただ裁判所への申し立てが必要という部分で、書類作成の困難さもあり、相談しても利用を差し控える方がいる。また市内の金融機関等と連携し、利用相談につなげてもらえる関係づくりが必要。
取り組み方針	事業周知の一環で、無料相談会を実施していく。申し立てが必要な場合は、協力いただいている弁護士・司法書士等と相談の上、速やかに申し立てができるように支援を行っていく。また、市内金融機関等と協議する機会を作り、制度の説明に加え、それぞれの機関でできる取り組み協力についても話し合いの場を設ける。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：障がい者支援課

数値目標等						
成年後見人等報酬助成件数(障がい者) (件)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	2	2	3	3	4	4
実績	5	-	-	-	-	-
達成度	250%	-	-	-	-	-
成年後見制度に関する相談件数 (障がい者) (延・件)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	50	55	60	65	70	75
実績	44	-	-	-	-	-
達成度	88%	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は障がい者等が住み慣れた地域で安心して生活してもらうため、成年後見制度を必要とする人が必要な時に、適切に利用できる環境づくりに寄与している。今後も地域における権利擁護支援のための、地域連携ネットワークを構築していく必要がある。</li> <li>・判断能力が低下している中でもできる限り、本人の意向を尊重することの大切さも普及していく。</li> <li>・本事業が必要な方に身近な存在である住民や地域の団体の見守りや声かけなどの協力を得ることで、より早く相談機関につながる体制を構築する。</li> </ul>

自己評価

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

3

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	13	計画書ページ	78ページ	基本目標	Ⅱ つながり、共に生きる唐津になろう
主要推進事業名	母子保健推進員体制の充実			施策の方向性	1 地域での医療体制の連携強化
				実施主体	健康増進課

1 事業概要

健やかに子どもを生ま育てるため、地域住民と行政との連携役として、母子保健推進員を設置し、こんにちは赤ちゃん訪問事業等を実施し、研修会等を行い、母子保健体制の質の向上に取り組みます。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：健康増進課

取り組み内容	市内50人の母子保健推進員の方へ乳幼児・妊産婦への訪問依頼を行い、延643人（乳児：309人、幼児：2人、産婦：309人、妊婦等：23人）に家庭訪問を行った。また、毎月母子保健推進員打ち合わせ会を各地区で実施し、研修や情報交換の場を確保した。
成果	乳児がいる家庭への訪問をとおして相談支援、子育て支援に関する情報提供を行うことで様々な不安や悩みを持つ母親への子育て支援を行うことができた。また、毎月の打ち合わせ会を通し、子育て支援を母子保健推進員の質の向上に努めることができた。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：健康増進課

課題	出生数の減少により母子保健推進員の設置数が減少し、令和7年度は48名で活動を行うこととなっている。また、母子保健推進員の任期は3年となっており、令和7年度から新たに14名の方が母子保健推進員として活動をされるため、母子保健に関する研修や、訪問活動を行う際の技術支援を強化し行う必要がある。
取り組み方針	母子保健推進員の方の母子保健に関する支援技術が向上できるよう、研修会や毎月の打ち合わせ会を定期的で開催する。また、地区担当の保健師と母子保健推進員が連携し、乳幼児がいる家庭への子育て支援を協力して行って行く。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：健康増進課

数値目標等						
母子保健推進員設置数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	52	52	52	52	52	52
実績	50	-	-	-	-	-
達成度	96%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
母子保健推進員の設置数は出生数の減少に伴い減少しているが、地区担当保健師と連携した母子保健活動により、子育てに悩んだり不安を感じている母親への支援が行うことができている。

自己評価

4

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	14	計画書ページ	78ページ	基本目標	Ⅱ つながり、共に生きる唐津になろう
主要推進事業名	身近な地域における医療体制の確保			施策の方向性	1 地域での医療体制の連携強化
				実施主体	地域医療課ほか

1 事業概要

離島や中山間地などのへき地に、継続的かつ安定的な一次医療を提供するため、市民病院と離島診療所の連携を強化し、離島・へき地の医療提供体制を確保します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署： 地域医療課

取り組み内容	神集島・高島・加唐島・馬渡島・小川島について離島診療所を設置し、松島、向島については、巡回診療等を実施した。 七山池原地区及び肥前町納所地区において、医師を派遣し診療を行った。
成果	離島診療所の設置及び巡回診療の実施により、離島における医療体制を確保した。 市民病院きたはたがへき地拠点病院に指定されたことにより、市民病院と離島診療所との連携する体制づくりに寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署： 地域医療課

課題	今後、医師の高齢化等に伴い、離島のみならず中山間地等においても医師不足が予測され、現状の医療体制の維持、確保が課題となっている。 また、小児・周産期医療体制の維持について、関係者との協議を進める必要がある。
取り組み方針	各離島診療所と市民病院きたはたとの連携を強化するとともに、県及び関係機関と医療体制の確保について連携して取り組んでいく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署： 地域医療課

数値目標等						
無医地区・準無医地区の数（地区）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	0	0	0	0	0	0
実績	0	-	-	-	-	-
達成度	100%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 （地域福祉への影響、進捗状況等）
へき地等における医療体制を維持することにより、地域において、安心して生活できる環境づくりに寄与している。

自己評価

4	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	15	計画書ページ	81ページ	基本目標	Ⅱ つながり、共に生きる唐津になる
主要推進事業名	ヤングケアラーに対する支援			施策の方向性	2 パートナーシップの強化
				実施主体	こども家庭センター、学校教育課

1 事業概要

唐津市要保護者等対策地域協議会において、佐賀県北部児童相談所や学校教育課等の関係機関とヤングケアラーの実態について情報共有し、支援に向けた協議を行い、相互連携を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：こども家庭センター

取り組み内容	こども自身が「ヤングケアラーかもしれない」と認識できるよう、学校等と連携し、啓発チラシの配布やポスター掲示を行い、周知を図った。また、教職員に対しても校長研修会等で周知を行った。
成果	関係機関の職員の意識向上及びこどもへの周知に繋がった。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：こども家庭センター

課題	ヤングケアラーは、こどもや家族が自覚しづらく、支援ニーズが顕在化しにくい。このような中、早期発見し、適切な支援に繋げるため、学校をはじめ関係機関と連携し、こども家庭センターへ情報を集約し、適切な支援体制を構築する必要がある。
取り組み方針	令和7年度中に、ヤングケアラー支援に向けた庁内検討会議を開催し、多機関が連携して発見・支援を行う際の役割等を示す「唐津市ヤングケアラー支援マニュアル」の策定に向けて関係部署・機関と情報共有を行い、早期発見及び適切な支援体制の構築を図る。特に、各学校や要対協から学校教育課に共有される情報を基に、ヤングケアラーを把握するとともに、適切かつ迅速な支援につなげる。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：こども家庭センター

数値目標等						
進行管理会議数（回）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	12	12	12	12	12	12
実績	12	-	-	-	-	-
達成度	100%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
令和6年度は、毎月、進行管理会議を開催し関係機関との情報共有を図るとともに、周知活動を中心に実施し、予定していた取り組みを遂行することができた。 今後は、課題となっている早期発見及び適切支援のため、支援マニュアルの作成が必要である。また、学校教育課と連携し、ヤングケアラーの把握に努めていく。

自己評価

3

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	16	計画書ページ	81ページ	基本目標	Ⅱ つながり、共に生きる唐津になろう
主要推進事業名	医療的ケア児の支援体制の構築			施策の方向性	2 パートナーシップの強化
				実施主体	障がい者支援課ほか

1 事業概要

在宅における医療的ケア児とその家族を支えるため、地域における基盤整備等の在宅生活支援や保育園、学校等の基盤整備、社会生活支援、経済的支援等の取り組みを行う支援体制を構築します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：障がい者支援課

取り組み内容	令和6年7月、唐津救急医療センター2階に「医療的ケア児とその家族のための交流・防災ステーション」を開設。北部地域障がい者相談支援センターを窓口とし、日常的な交流の場と災害時の避難場所を兼ねた拠点として運営を開始した。
成果	災害時にも安心して避難できる専用避難スペースを確保し、シャワー室・個室・蓄電池等を備えた施設として、全国的にも先駆けとなる取り組みとなった。 医療的ケア児と家族間のネットワーク形成の場として機能し始めている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：障がい者支援課

課題	実利用者の登録や利用促進が今後の課題である。
取り組み方針	佐賀県医療的ケア児支援センターとの連携を強化し、出張相談会等の活用による対象者の把握を推進する。 関係団体との意見交換会を継続的に開催し、実利用に向けた周知と機能改善を図る。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：障がい者支援課

数値目標等						
医療的ケア児とその家族の交流スペースの設置						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	設置	実施	実施	実施	実施	実施
実績	設置	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
市内に居住する医療的ケア児とその家族にとって、日常的な交流と災害時の避難を両立する安心の拠点が確保された。それに伴い、12家族が利用のための事前登録をされた。
○医療的ケア児登録家族数 【令和6年度】実績：12家族 【令和7年度】目標：14家族 ※令和8年度以降の目標：前年度+2家族

自己評価

4	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	17	計画書ページ	84ページ	基本目標	Ⅱ つながり、共に生きる唐津になろう
主要推進事業名	子どもの居場所等の実施団体のネットワーク化			施策の方向性	2 パートナーシップの強化
				実施主体	こども家庭課

1 事業概要

子ども食堂、子どもの居場所、子ども宅食を実施している団体のネットワークを形成し、団体同士の交流や情報交換を通して、各団体の円滑な運営を目指します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：こども家庭課

取り組み内容	こども食堂、こどもの居場所、こども宅食を実施している団体で形成された地域ネットワークにおいて、ネットワーク会議や食品衛生管理等に関する研修会を開催した。
成果	こどもの居場所等の実施団体同士の連携推進により、団体間での情報交換や物資の共有が行われるなど、相互交流を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：こども家庭課

課題	こどもの居場所等の運営にあたっては、物的・人的・経済的な支援が重要であり、実施団体が様々な支援（物品提供者や担い手となる人材などの地域資源）を得るためにも、団体間の連携に加えて、地域や支援者とのつながり（ネットワークの拡大）が求められる。
取り組み方針	まずは居場所等の活動に関する広報周知を強化し、居場所等の価値を広く発信することで、既存の地域資源のみならず、新たな支援者や担い手とのつながりを創出し、将来的なネットワークの拡大を目指す。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：こども家庭課

数値目標等						
ネットワーク会議・研修会回数（回）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	5	5	5	5	5	5
実績	6	-	-	-	-	-
達成度	120%	-	-	-	-	-
数値目標等						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
ネットワーク会議等の開催により、居場所等の実施団体同士の連携創出・連携強化を推進し、会議への参加団体を対象とする満足度調査においても一定の評価を得ている。 今後は居場所等の持続的運営の確立に向け、実施団体と様々な支援（地域資源）をつなぐ環境づくりの一環として、ネットワークの拡大にも取り組む必要がある。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	18	計画書ページ	84ページ	基本目標	Ⅱ つながり、共に生きる唐津になろう
主要推進事業名	フードエイド活動や子ども宅食支援の推進			施策の方向性	2 パートナーシップの強化
				実施主体	社会福祉協議会

1 事業概要

食料品等の寄付を募り、生活に困窮している世帯へ、相談時に食材の現物給付を行います。また、子どものいる困窮世帯への訪問宅食を通じて、世帯の現状把握と専門機関につなげる体制をつくります。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	フードバンクや市内の個人・事業所からの寄付物品を受け付け、生活相談時に必要最低限の食料等を提供。また、市内の宅食活動団体と連携し、子どものいる困窮世帯への訪問活動を月1回行い、子どもと保護者の現状把握と相談対応を行う。
成果	困窮者にとって食料等現物は重要なものであり、即時救済に大変有用であり、各相談機関にも周知され利用が多い。宅食活動においては、社会から孤立しがちな部分を補い、問題に対し気軽に相談できるようにつながり続けるツールとして機能している。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	相談時に食料等を1週間分提供するが、課題解決に直結するのではなく、2～3回継続して提供する場合もある。物価高騰のなか寄付物品も減少しており、食品提供に対する制限も難しい状況。また、宅食支援において、支援対象の要件を具体的に定めていないため、子どもの成長等以外での支援終了(卒業)も検討が必要。
取り組み方針	寄付の呼びかけを強化し、寄付いただいた方へ実施報告を行うなど、継続した食料確保に取り組む。また宅食活動における対象者要件を定め、世帯情報の提供同意や各団体との情報共有を進める。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：社会福祉協議会

数値目標等						
食料品提供世帯数（窓口相談件数）（件）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	120	120	120	120	120	120
実績	108	-	-	-	-	-
達成度	90%	-	-	-	-	-
宅食支援世帯数（世帯）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	27	29	31	33	35	37
実績	39	-	-	-	-	-
達成度	144%	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 （地域福祉への影響、進捗状況等）
食料寄付を募ることで、寄付・募金による福祉意識の向上とともにフードロスにもつながっている。また、困窮世帯への現物提供救済は、初期の支援において有効性がある。寄付者へは活用報告を行い、寄付の有意義さを周知することで、継続的な寄付へつなげる工夫を行っていく。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	19	計画書ページ	88ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	身近な地域における支え合い活動の推進			施策の方向性	1 身近な地域での支え合いの充実
				実施主体	福祉総務課、社会福祉協議会

1 事業概要

身近な地域における福祉の協力員として「福祉員」を設置し、行政と社会福祉協議会が連携して、その活動を支援します。また福祉員の活動について、研修や会議を通じて活性化を図ります。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	各町からの推薦に応じ、福祉員を委嘱。また地区ごとに福祉員研修を行い、民生委員や町内会長との連携して行う活動の重要性を説明。地域の見守り活動やサロン活動への協力を呼びかけた。
成果	コロナ禍以降、地域の取り組みは一時停滞していたが、市内のサロン活動も概ね再開。また高齢者の新たな通いの場づくりに協力するなど地域差はあるが、福祉活動の推進に協力いただいている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	福祉活動はその継続性が必要ななか、人材確保が困難な部分があり、受任者も高齢化しており、活動を縮小せざるを得ない地区も出てきている。そのような中で、地域による活動量の差が見受けられる。
取り組み方針	町内役員への福祉活動協力を今後も求め、その担い手である福祉員と情報共有する機会をもつよう働きかける。また比較的若い世代への活動協力を呼びかけ、人材確保に取り組む。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：福祉総務課

数値目標等						
福祉員設置数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	890	890	890	890	890	890
実績	814	-	-	-	-	-
達成度	91%	-	-	-	-	-
町内会長・民生委員・福祉員の情報交換会の創設(年2回程度)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	体制整備	実施	実施	実施	実施	実施
実績	体制整備	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
町内会長・民生委員と連携し、福祉課題の解決に向けて取り組んでいる。令和6年度には町内会長・民生委員との情報交換会の体制を整備し、連携の強化を図ることができた。令和7年度以降は、さらに生活・福祉課題の解決に取り組めるよう事業を進めたい。
○町内会長・民生委員・福祉員の情報交換会の創設 【令和6年度】各地区へ福祉員研修等で呼びかけを実施 【令和7年度】年2回の実施地区：40町(区)を目標 ※令和8年度以降は、状況に応じて目標設定

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	20	計画書ページ	88ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	身近な地域における見守り活動の推進【地域住民グループ支援事業】			施策の方向性	1 身近な地域での支え合いの充実
				実施主体	地域包括ケア推進課、社会福祉協議会

1 事業概要

見守りが必要な概ね65歳以上の在宅のひとり暮らし高齢者等を、連絡員が定期的に訪問することで、見守り対象者の孤独感を解消し、日常生活を安全に暮らせるようにします。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：地域包括ケア推進課

取り組み内容	週1回以上訪問することで高齢者の孤独感を解消し、また相談に対し必要な支援活動を行った。 民生委員へ制度の説明を行い、地域で孤立する恐れのある高齢者の登録を呼びかけた。また連絡員の負担を減らすとともに実施状況がわかるよう、記録様式の一部を見直した。
成果	一人暮らし高齢者の把握につながった。令和6年度は374名の高齢者に対して訪問活動が実施され、地域住民同士がつながることで高齢者が孤立せずに自立した生活への意欲や安心感を高めることができた。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：地域包括ケア推進課

課題	地域住民グループ支援事業において、見守り・訪問を行う連絡員を隣近所で確保する必要があるが、引き受けを拒否する方も多く、登録がなかなか進まない。人材が確保できず、民生委員自身が連絡員を担う事例が散見される。 民生委員が必要性感じても、高齢者本人が拒否をすることもある。 地区による活動の偏在が生じている。
取り組み方針	手引きの周知を通じて、訪問活動について民生委員だけでなく連絡員にも制度を十分に理解してもらおう。連絡員の負担を少しでも減らせるよう、検討・改善を行う。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：地域包括ケア推進課

数値目標等						
連絡員数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	458	477	492	510	528	546
実績	374	-	-	-	-	-
達成度	82%	-	-	-	-	-
見守り対象者数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	503	522	537	555	573	591
実績	383	-	-	-	-	-
達成度	76%	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
地域住民グループ支援事業による定期的な見守り活動を通じて、高齢者の孤立感の軽減、異変の早期発見、相談・支援への接続が実現されており、地域福祉の基盤形成に貢献している。 また、住民同士のつながりが再構築される中で、「支える側」と「支えられる側」という枠を超えた相互支援意識醸成に貢献している。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	21	計画書ページ	91ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	災害・緊急時に支援が必要な人への支援の強化			施策の方向性	1 身近な地域での支え合いの充実
				実施主体	福祉総務課

1 事業概要

「避難行動要支援者名簿」を活用した重層的な災害時支援を行います。特に、要支援者ごとに避難支援を行う者や避難先等を記載した「個別避難計画」の策定率向上に努めます。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：福祉総務課

取り組み内容	新たに避難行動要支援者に該当する人に「同意確認兼個別計画」を提出してもらった。情報共有を同意された要支援者の情報は地域の行政連絡員や民生・児童委員に共有し、災害時における協力体制の構築につなげた。
成果	避難場所の確認と合わせ避難行動に対する意識の向上を図ったほか、避難する際に協力できる方など改めて認識していただいた。また、地域の支援者に情報を共有することで安心感につながった。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：福祉総務課

課題	避難行動要支援者には、まだ個別避難計画を策定されていない方が半数いる。
取り組み方針	情報共有に同意されていない、また個別避難計画を策定されていない要支援者に対し、定期的に連絡し確認していく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：福祉総務課

数値目標等						
避難行動要支援者に占める個別避難計画策定者の割合(%)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	51	53	56	59	62	65
実績	52.9	-	-	-	-	-
達成度	104%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
近年大雨などの災害が発生していることもあり、市民の災害・防災への意識は高まっていると感じている。 個別避難計画の策定者の割合は目標をクリアしたものの、市がめざす、災害時における要支援者への協力体制としては、まだ十分とは言い難く、さらなる取り組みが必要と感じる。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	22	計画書ページ	91ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	自主防災組織の設置促進と育成強化			施策の方向性	1 身近な地域での支え合いの充実
				実施主体	危機管理防災課

1 事業概要

住民の安全・安心のため、地域（コミュニティ）内で自主的に活動する自主防災組織（共助）の設置促進、育成強化に取り組みます。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：危機管理防災課

取り組み内容	市内の小中学校での防災講話や体験授業、さらに地域住民や自主防災組織への情報提供や訓練支援を通じて、児童生徒及び地域の防災意識向上と地域防災力の強化を図った。さらに、地域防災力向上のため、意見交換会や防災リーダーフォローアップ講座等を開催し、自助や共助の醸成を図った。
成果	参加者した生徒・児童、地域住民の防災意識向上を図り、地域防災力の一助となった。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：危機管理防災課

課題	自主防災組織は地域における自主的な活動であるため、新規の設立に向けては、地域の中にもそのような機運や危機意識が十分にあることが欠かせない。しかし、地域をまとめるリーダーの不在や役員のなり手がいないなど、話し合いがすすみにくい地域特有の事情を抱えていることも多く、新規設立数の伸びは鈍化傾向にある。また、設立はしたものの活動が停滞している組織が見受けられる。
取り組み方針	設立や活動内容の相談に丁寧に応じるとともに、地域の依頼による防災講話で成功事例などを紹介しながら、設立の機運を醸成するための取り組みをしっかりと進める。また、今後も意見交換会や地域防災リーダーフォローアップ研修の実施により、市民の防災意識向上及び自主防災組織の活動の活性化を図る。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：危機管理防災課

数値目標等						
自主防災組織設置数（組織数）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	88	91	94	97	100	103
実績	85	-	-	-	-	-
達成度	97%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 （地域福祉への影響、進捗状況等）
<ul style="list-style-type: none"> <li>「自主防災組織の設置数」は、当初の目標を達成している。</li> <li>組織数の増加は、地域の防災力向上（身近な地域で支え合いの充実）に直結していることから、より安全なまちづくりの推進のため、引き続き組織数の増加に努めていきたい。</li> </ul>

自己評価

3

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	23	計画書ページ	91ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	災害ボランティアセンター活動の推進			施策の方向性	1 身近な地域での支え合いの充実
				実施主体	福祉総務課、社会福祉協議会

1 事業概要

災害発生時に備え、災害ボランティアセンター機能の周知及び設置訓練を行うとともに、関係機関・団体との情報交換を行います。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	令和5年度の災害を踏まえ、他市町の取り組みを参考に、市や支援団体と平常時からの準備を進めてきた。また、県内で行われる災害ボランティアセンター設置研修に参加し、災害発生時に向けた役割分担を確認した。
成果	災害ボランティアセンターの設置及び運営方法について理解が深まった。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	市内の各種団体と連携を深め、具体的な連携内容の確認を行う必要がある。
取り組み方針	令和5年度の災害を風化させないよう、市・社協・各種団体と発災時手続きの再確認を行い、ボランティア活動の紹介や災害ボランティアセンターの設置訓練を行う。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：福祉総務課

数値目標等						
研修会・情報交換会の実施						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	検討	実施	実施	実施	実施	実施
実績	検討	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
研修をとおして県内他市の取り組みについて学び、災害ボランティアセンターの設置訓練に向けて準備を進めることができた。令和7年度は具体的な設置場所の協議を進めたい。
【令和6年度】実績 実施に向けた研修の参加回数：8回(延べ15人)
【令和7年度】目標 ボランティア参加者数：50人 ※令和8年度以降は、状況に応じて目標設定

自己評価

4	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	24	計画書ページ	94ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	地域コミュニティ組織等の活動に対する支援			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	地域政策課

1 事業概要

任意団体、自治会などの市民を構成員とする団体である地域コミュニティ組織による地域活動に対して、補助金による支援を行います。（スタートアップ型の支援のため、最長5年間を支援）

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：地域政策課

取り組み内容	市民の知恵や発想を最大限に引き出し、活発なコミュニケーションを通じて、地域が自らの選択と責任で個性と魅力あるまちづくりを推進する取り組みに対し、補助金を支出した。
成果	ソフト事業20件（うち新規5件）、ハード事業8件に対し補助金を支出し、市民のつながりを強固にし快適で暮らしやすいまちづくりの実現に寄与した。また、令和5年度までの地域力促進枠を通常枠に一本化し、チャレンジ事業41件とまちづくり会議25件に補助を行った。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：地域政策課

課題	補助対象事業の範囲が広く、市の他の補助金と競合する部分がある。
取り組み方針	市の他の補助事業と競合する部分があるため、市の他の事業と整理・統合を進めていく。事業が継続して実施できるよう、団体の自立化を促進するため補助率の調整を行う。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：地域政策課

数値目標等						
がんばる地域応援事業補助金(通常枠ソフト事業)の申請件数(件)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	30	30	30	35	35	35
実績	20	-	-	-	-	-
達成度	67%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
令和6年度に制度見直しとして、地域力促進枠を通常枠に一本化し、チャレンジ事業の限度額を10万円から5万円にする調整を行った。まちづくりを推進する活動を行う市民の団体に補助を行うことにより、地域での交流活動を推進し、誰もが気軽に集い交流できる場の充実したまちの実現に貢献することができた。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

## 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	25	計画書ページ	94ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	地域支え合い活動の推進 【生活支援体制整備事業】			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	地域包括ケア推進課、社会福祉協議会

### 1 事業概要

高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域の多様な主体による支え合い活動を広げ、地域でお互いに支え合う体制づくりを推進します。

### 2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	市内27の地域協議体において、地域課題や高齢者の生活支援（通いの場合）について協議し、地区ごとに活動の検討・見直しを行い取り組みの推進を図った。
成果	既存の制度やサービスでは対応できない困りごとの解決につながり、高齢者の在宅生活継続の一助となっている。地域住民の相互支援活動であるため、住民同士のつながりづくり・顔の見える関係性ができ安心・安全のまちづくりにもなっている。また、支える側として高齢者が活動することで社会参加、生きがいづくり、介護予防など幅広い効果が生まれている。

### 3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援活動（家事支援、送迎支援、ゴミ出し支援等）の周知が不十分であり利用者が少ない</li> <li>・活動者の確保、人材育成が必要</li> <li>・地域組織や事業所との連携・協力関係の構築が不十分</li> <li>・若い世代を含め幅広い世代による支え合いの関係を作っていくことが必要</li> </ul>
取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援活動の立ち上げに至っていない地区もあるため、当該地区での支え合い活動のあり方や必要性などを検証・分析し地域に合った活動や支え合いの体制を構築していく</li> <li>・既存の活動の充実、関係者間のネットワーク構築を進め持続可能な活動体系を築き共生社会を目指す。</li> </ul>

### 4 進捗状況及び自己評価

記入部署：地域包括ケア推進課

数値目標等						
地域支え合い活動数（活動）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	17	19	21	23	25	27
実績	19	-	-	-	-	-
達成度	112%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
<p>高齢者の生活の場である身近な地域において、住民同士で支え合う関係性ができ、また住民が自ら困りごとの解決に携わることで、地域づくりへの関心が高まり一人ひとりの意識の改革が図られ、地域力及び地域福祉の向上につながっている。</p> <p>通所型、訪問型、移動型の住民主体サービスに対し、補助金を交付することで活動の継続的な実施および活動基盤の安定化を図った。</p>

#### 自己評価

# 3

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

#### 評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	26	計画書ページ	97ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	地域子育て支援拠点事業の普及			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	児童保育課、社会福祉協議会

1 事業概要

地域子育て支援拠点施設を充足し、子育てに対する不安の解消や世代間の交流、多様な人間関係と関わりを充実し、地域の子育て力の向上に努めます。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：児童保育課

取り組み内容	公共施設や認定こども園、保育所等の身近な場所で、乳幼児のいる子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供等を実施した。
成果	子育て世代に対して情報提供や相談業務を行い、子育ての不安解消に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：児童保育課

課題	各地域の保育所等において、本市の中心地周辺の施設では、利用者が多い傾向にあるが、市民センター管内の施設では利用者が少ない傾向にあるため、利用者を増加させる取り組みが必要となる。
取り組み方針	利用者の声や活動を活かした市報やホームページの作成、保護者への周知を強化し、親しみやすいプログラムの展開により利用促進を図る。 あわせて事業の安定的な継続を支えるため補助金の交付により運営体制を支援する。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：児童保育課

数値目標等						
地域子育て支援拠点施設数（か所）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	21	23	23	23	25	25
実績	22	-	-	-	-	-
達成度	105%	-	-	-	-	-
地域子育て支援拠点事業参加者数（延べ人数）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	14,700	15,100	15,100	15,100	15,500	15,500
実績	23,546	-	-	-	-	-
達成度	160%	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 （地域福祉への影響、進捗状況等）
子育てに関する不安や悩みの解消を行うとともに、子育て世代が交流する場を開設することで、子育て家庭の孤立化を防ぐことができた。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	27-1	計画書ページ	97ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	障がいのある人や高齢者の生きがいづくりの推進【障がい者】			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	障がい者支援センター

1 事業概要

障がいのある人や高齢者の社会参加のため、障がいのある人や高齢者向けの生涯学習（パソコン教室、カラオケなど）を実施し、誰もが健康で生きがいを持って暮らせるようにします。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：障がい者支援センター

取り組み内容	各教室開催日 機能訓練教室：毎週木曜日 パソコン教室：月2回 生け花教室：月2回 書道教室：月2回 カラオケ教室：月2回 民謡教室：月1回 園芸教室：月1回
成果	各教室開催回数及び延べ利用者数 機能訓練教室：43回 844人 パソコン教室：19回 173人 生け花教室：22回 55人 書道教室：23回 174人 カラオケ教室：21回 143人 民謡教室：12回 24人 園芸教室：9回 27人

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：障がい者支援センター

課題	利用者のニーズにより、定員に満たない教室もあることから、教室の開催回数が目標に達していない。 教室で利用者数に差が生じている。 公共交通機関利用が難しい利用者に対する移動手段の確保。
取り組み方針	年齢や障がいの特性に応じた教室が求められていると考えられるため、アンケート等を実施し、ニーズの調査を行う。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：障がい者支援センター

数値目標等						
障がい者デイサービス事業利用者数（延べ人数）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	1,500	1,500	1,550	1,550	1,600	1,600
実績	1,440	-	-	-	-	-
達成度	96%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 （地域福祉への影響、進捗状況等）
障がいのある方が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、通所により機能訓練、社会適応訓練及び社会参加支援を実施し、障がいのある方の福祉の増進及び地域生活の促進を図ることができた。 課題解決に向けては、他市町の状況、利用者のニーズ調査を行うなどして、より多くの利用者に教室への参加を促したい。

自己評価

3
---

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	27-2	計画書ページ	97ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	障がいのある人や高齢者の生きがいづくりの推進【高齢者・ふれあいサロン】			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	高齢者支援課、社会福祉協議会

1 事業概要

障がいのある人や高齢者の社会参加のため、障がいのある人や高齢者向けの生涯学習（パソコン教室、カラオケなど）を実施し、誰もが健康で生きがいを持って暮らせるようにします。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	地域に求められる取り組みを展開し、趣味の講座や体操教室等を実施。また参加者同士の交流促進のため、バスハイクを実施している。
成果	閉じこもり防止になっており、参加される方は生きがいをもって参加されている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	長年取り組んでいる中で、生きがいを持って参加されているため、内容そのものを刷新するのは難しい面がある。その一方で、世代ごとの偏りもあり、高齢者の比較的若い層の取り込みが出来ていない。
取り組み方針	現在の参加者だけでなく、高齢者全般のニーズを探る必要があるため、体制整備事業の生活支援コーディネーターなどと協働し、その地域で必要とされる講座等を企画していく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：高齢者支援課

数値目標等						
高齢者ふれあいサロン実施回数（回）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	95	100	105	110	115	120
実績	95	-	-	-	-	-
達成度	100%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
高齢者等に集いの場を提供し、自身の積極的な活動を促すことにより認知症や閉じこもり、孤立化の防止を図ることができた。

自己評価

3

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	27-3	計画書ページ	97ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	障がいのある人や高齢者の生きがいづくりの推進【高齢者・生きがいと健康づくり】			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	高齢者支援課

1 事業概要

障がいのある人や高齢者の社会参加のため、障がいのある人や高齢者向けの生涯学習（パソコン教室、カラオケなど）を実施し、誰もが健康で生きがいを持って暮らせるようにします。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署： 高齢者支援課

取り組み内容	唐津市老人クラブ連合会及び唐津市社会福祉協議会に委託し、高齢者の生涯学習(陶芸教室、カラオケ等)や社会活動(環境美化活動等)を実施した。
成果	高齢者等が地域社会に積極的に参加し、自らの生きがいのある豊かな人生の創造や学習等を通じて能力の再開発等の活動ができた。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署： 高齢者支援課

課題	高齢化の進行やライフスタイルの変化に伴い、高齢者の趣味・趣向も広がりを見せているため現在の活動だけではニーズに応えきれていない面がある。
取り組み方針	委託先と連携し、新たな講座等の創設を行う。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署： 高齢者支援課

数値目標等						
高齢者の生きがいと健康づくり推進事業参加者数(延べ人数)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	23,000	23,500	23,500	23,500	24,000	24,000
実績	19,084	-	-	-	-	-
達成度	83%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
高齢者が地域社会に積極的に参加し、生きがいのある豊かな人生を創造できるよう支援することができた。 高齢化の進行に伴い、高齢者の中でも様々な年代ごとのニーズへ対応して行く必要がある。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート (R6年度)

事業No.	28	計画書ページ	100ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	市民ボランティア活動の推進			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	福祉総務課、社会福祉協議会

1 事業概要

ボランティア活動への理解と参加啓発のため、ニーズに応じた講座を実施し、参加者を増やし、ボランティアの派遣要請の受付、マッチング機能の充実を図り、ボランティアが活発に活動できる環境をつくります。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	市民向けのボランティア養成講座を実施し、ボランティア活動について学び、活動につながる機会をつかった。また施設等からボランティア募集の相談があれば、りふれ内の掲示板等で活動募集情報を掲示し、必要に応じて紹介・斡旋を行った。
成果	講座受講生が、そのままサークルや団体に加入し、ボランティア活動に従事されている。施設への慰問等も活動者の能力を発揮する場となっており、一定の成果が出ている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	市民向け講座の種類が限られており、参加者の確保が課題。ボランティア連絡協議会と連携して講座を行うなど、新たなメニューでの講座実施や、開催方法についても工夫が必要。
取り組み方針	新たな講座メニューを検討するため、参加者にアンケートで意見を求めることなどを検討。またボランティア連絡協議会の大会(ボランティアのつどい)と連携して行うことも検討する。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：福祉総務課

数値目標等						
ボランティア登録者数(団体登録の会員含む) (人)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	120	120	150	150	150	180
実績	63	-	-	-	-	-
達成度	53%	-	-	-	-	-
ボランティア派遣件数(マッチング件数) (件)						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	70	70	75	75	80	80
実績	42	-	-	-	-	-
達成度	60%	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
市でも市報やホームページ、チャンネルからつで市民向けのボランティア養成講座の広報を行うことで、ボランティア参加者の増加に繋がっている。一方、ボランティア参加者の高齢化が進んでいるため、若年層も取り込むことができる講座の開催を進めたい。

自己評価

2	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	29	計画書ページ	100ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	介護支援ボランティア活動の推進			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	地域包括ケア推進課

1 事業概要

介護支援ボランティア活動を通して、地域貢献することを奨励・支援することにより、高齢者等の社会参加を推進します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：地域包括ケア推進課

取り組み内容	令和4年度から佐賀県長寿社会振興財団へ業務委託。 令和6年度から介護支援ボランティア登録者の対象年齢を65歳以上から40歳以上に引き下げ、登録者の増加と活動内容の更なる拡充を図り、地域貢献による社会参加や健康寿命の延伸を推進している。
成果	ボランティア登録者数は年々増加しており、40代から90代まで登録され、ボランティア活動に取り組まれている。 受入施設は新規6箇所登録されているが、廃止・休止事業所等の見直しにより、施設数は減少している。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：地域包括ケア推進課

課題	ボランティア登録者数、受入機関数が地域により偏りがある。ボランティア登録者へのサポート、やりがいや自己研鑽につながる研修が十分ではない。
取り組み方針	ボランティア活動を継続していくことで、社会参加の促進や生きがいづくりにつながり、健康寿命の延伸や介護予防につなげたい。また、登録者の主観的健康観やボランティア指定施設数の増減を事業評価していく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：地域包括ケア推進課

数値目標等						
ボランティア登録者数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	220	230	240	250	260	270
実績	230	-	-	-	-	-
達成度	105%	-	-	-	-	-
ボランティア指定施設数（か所）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	142	144	146	148	150	152
実績	134	-	-	-	-	-
達成度	94%	-	-	-	-	-

事業実施による質的評価 （地域福祉への影響、進捗状況等）
ボランティア登録者数は年々増加しており、高齢者等の社会参加の場は広がっている。しかし、地域により偏りがある点は課題である。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	30	計画書ページ	103ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	認知症サポーター養成講座の開催			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	地域包括ケア推進課

1 事業概要

共生社会の実現を推進するために、認知症サポーターを養成することで、認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を普及啓発し、安心して暮らせるまちづくりを目指します。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：地域包括ケア推進課

取り組み内容	医療・介護事業者や民間企業、学校教育の場において、認知症サポーター養成講座を28回開催した。受講者数は688名（うち初回547名）であった。 ＜初回参加者の内訳＞ 一般：440人 小学生：1校51人 中学生：1校17人 高校生：1校39人
成果	認知症サポーターが増加してきている。地域において認知症への理解が普及していくための基盤ができては始めている。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：地域包括ケア推進課

課題	共生社会の実現を推進していくために学校関係者や行政職員、日常生活・社会生活を営む基盤となるサービスを提供する事業者に従事する者等に対する受講を促進すること、「新しい認知症観」の実感的理解を深められるよう認知症の人の参画を得ることが課題。
取り組み方針	上記対象者へ認知症サポーター養成講座についての受講を呼びかけ、認知症への理解を推進すると共に新しい認知症観の普及にも力を入れる。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：地域包括ケア推進課

数値目標等						
認知症サポーター養成講座受講者数（人）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	310	330	350	360	380	400
実績	547	-	-	-	-	-
達成度	176%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 （地域福祉への影響、進捗状況等）
認知症サポーター養成講座の認知度が高まり、各関係団体より受講依頼が増加してきている。実績には、初回受講者のみ計上しているが、受講者総数は、688人と数回受講している人も多く、認知症への意識の高さを感じる。また、認知症サポーター養成講座受講後、さらに意欲のある人はステップアップ研修会へも参加し、居住地域や認知症カフェ等でボランティア活動をしている人もいる。

自己評価

3	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

## 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	31-1	計画書ページ	103ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	福祉教育の推進【市】			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	学校教育課、生涯学習文化財課

### 1 事業概要

総合的な学習の時間等を活用し、障がい者や高齢者の疑似体験、中学校子育てサロンの実施など、福祉に関する教育を社会福祉協議会などと連携して、小・中学校全校で推進していきます。

### 2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：学校教育課

取り組み内容	各学校で総合的な学習の時間等を活用し、障がい者・児や高齢者の疑似体験などを行った。 (例：手話・点字体験、サウンドテーブルテニス体験、車椅子バスケットボール体験、要約筆記体験、高齢者疑似体験、インクルーシブ運動会（車椅子リレー）、妊婦体験、中学校子育てサロン)
成果	疑似体験や世代を超えた交流活動を通じて、障がい者・児や高齢者への理解を深め、インクルーシブな考え方や共生社会の大切さを学ぶことができた。

### 3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：学校教育課

課題	体験学習等の実施に係る時間等の確保、安全面の確保。例えば車いす体験などにおいて、試乗することが目的にならないように、支援を必要とする高齢者や障がい者・児の方々の特性について、理解できるような目的を明確にした体験となるよう指導していく。
取り組み方針	各学校への啓発。児童生徒の体験学習の時間を確保する。本物に直接触れる実体験を大切にしながら、1人1台端末を活用したりリモート形式での体験なども含め、柔軟に対応していく。また、実体験後のシェアリング（振り返り活動）を通して、児童生徒自らの気づきを促したい。

### 4 進捗状況及び自己評価 記入部署：学校教育課

数値目標等						
実施校数（校）						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	48	46	46	46	46	46
実績	34	-	-	-	-	-
達成度	71%	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動目的を明確にしなが、各学校の実態に応じた体験活動を実践していくとともに、社会の一員としてルールを守り、社会貢献しようとする豊かな心を育てることができている。</li> </ul> <p>【質的評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 共生への理解と気づき</li> <li>・利用者の気持ちや利用者が危険に感じている場所に気付くことができた。（実施校の感想）</li> <li>② 外部人材の有効活用</li> <li>・障がい者や介護福祉士、日本財団パラサポなど。</li> </ul>

#### 自己評価

4

自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。

#### 評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響はあった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない

第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート（R6年度）

事業No.	31-2	計画書ページ	103ページ	基本目標	Ⅲ ふれあい、支え合う唐津になろう
主要推進事業名	福祉教育の推進【社協】			施策の方向性	2 一人ひとりが輝く活躍の機会の充実
				実施主体	社会福祉協議会

1 事業概要

総合的な学習の時間等を活用し、障がい者や高齢者の疑似体験、中学校子育てサロンの実施など、福祉に関する教育を社会福祉協議会などと連携して、小・中学校全校で推進していきます。

2 令和6年度の具体的な取り組み内容及び成果 記入部署：社会福祉協議会

取り組み内容	学校からの相談・要請に応じて、講座内容を組み立て、必要機材の貸出や講師派遣を行った。また、児童・生徒によるボランティア活動を推進するため、申請に応じた助成金を交付し、活動を行った。
成果	担当の教諭と相談し、福祉教育のための講座を実施。また助成金を交付し、児童・生徒によるボランティア活動に役立ててもらった。

3 課題や今後の取り組み方針 記入部署：社会福祉協議会

課題	総合学習の中で、どういった取り組みを行うかはその時の担当教諭の方針にかかっているため、ボランティア活動の意義を教諭・児童・生徒へどう伝えるかが重要と感じている。また助成金の使途で、校内美化活動の実施が多く、自発的な地域貢献活動につなげるような工夫が必要。
取り組み方針	年度開始前に、福祉教育についての説明会を行い、教育プログラムの内容や助成金の用途など、担当される方または後任に引継ぎできるように、社協の実施方針等を説明する。また各学校の取り組み内容について周知する機会を作り、ボランティアについて啓発と地域住民による共同参加など検討していく。

4 進捗状況及び自己評価

記入部署：社会福祉協議会

数値目標等						
学校ボランティア協力校への活動助成						
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標	検討	実施	実施	実施	実施	実施
実績	検討	-	-	-	-	-
達成度	-	-	-	-	-	-
項目	R6	R7	R8	R9	R10	R11
目標						
実績						
達成度						

事業実施による質的評価 (地域福祉への影響、進捗状況等)
学校ボランティア助成について、申請に基づき交付を行っているが、より自発的な活動、支えあいの活動につながるよう改善を図りたい。
【令和6年度】実績 助成金実績(使途)の確認・検証
【令和7年度】目標 担当教員、生徒と意見交換、助成内容の検討 ※児童・生徒が主体となった内容をめざす

自己評価

2	自己評価点数は、数値目標等と、事業実施による質的評価を併せて、総合的にお願いします。
---	--

評価基準

5	目標を十分に達成し、かつ地域福祉に大きな影響を与えた
4	目標を達成し、地域福祉に一定の影響があった
3	目標はほぼ達成しているが、改善の余地がある
2	目標未達成であり、地域福祉への影響も限定的
1	目標達成度が低く、事業実施の影響がほとんど見られない